

元アメリカ国防長官

ウィリアム・ペリー

正念場を迎えた「核なき世界」構想

William James Perry
1927年生まれ、スタンフォード大学数学科卒、数学博士。カーター政権で研究・技術担当国防次官、クリントン政権で国防副長官、94～97年国防長官。97年よりスタンフォード大学上級研究員。99年大統領特使として北朝鮮を訪問。オバマ大統領に核軍縮を提言した4賢人の一人。



聞き手・
本誌編集委員
春原剛

——オバマ大統領が掲げた「核なき世界」の実現が完全に停滞しているように見えます。

ペリー ワシントンとモスクワの関係は、今、一九八〇年代前半、ブレジネフ（旧ソ連・共産党）書記長時代よりも悪化しています。そのような事態を招いた原因は、主として米国にあります。まず、クリントン政権時代に北大西洋条約機構（N

AATO）の拡大を急ぎすぎました。東欧諸国をNATOに加盟させる構想は素晴らしいが、ロシアとの前向きな関係を構築する努力に大きく水を差したことは否めません。私は当時、国防長官として「数年間、（NATO拡大を）延期して、ロシアに猶予を与えるべきだ」と主張しましたが、受け入れられませんでした。

——その後に登場したブッシュ政権が弾道弾迎撃ミサイル（ABM）制限条約を一方的に撤廃、さらに東欧にミサイル防衛（MD）拠点を設けると表明したことで、ロシアは態度を一気に硬化させました。

ペリー その通り。ロシアは核軍縮交渉において、最も肝心な戦術核兵器の削減に一切、応じなくなりました。国防長官時代、ロシアとの関係において、私は多くの分野で成果を手に入れましたが、戦術核兵器の削減問題だけは別でした。このことは、世界規模の核軍縮において非常に重要な点であると同時に、トラブルの根源ともなっている。

——現在、ロシアはどれくらいの戦術核兵器を保有しているのでしょうか。

ペリー 数千発とも言われていますが、正確にはわかりません。

核兵器を「大国カード」にするプーチン

——ロシアのプーチン大統領は最近、ウクライナ情勢をめぐって「戦術核兵器の使用も考えた」という主旨の発言を繰り返して、物議を醸しました。

ペリー プーチン大統領にとって、核兵器は手の中にある「エース・カード」のようなもので、彼にとって力の源泉で

あり、ロシアをグレート・パワー（大国）とさせているものです。だから、あの発言は単なるブラフ（脅し）ではなかったと思います。核兵器を維持するため、彼は多くの投資を厭わず、また、同調者を募ることでしよう。

核兵器を持つことと、核兵器を持っていると人々に知らしめることは別のことです。そして、彼はそれを核攻撃に対してだけではなく、さまざまな場面で使う用意があると周囲に信じさせることにより、自らの戦略の効率性を高めています。実際、彼は通常兵器による攻撃に対しても、核報復する用意があると、はっきり述べています。

——裏を返せば、通常兵器でも、ロシアは米国やNATOに対抗できない、ということですね？

ペリー その通り。実際、彼は「我々の通常戦力はNATOのそれより劣っている」と認めています。しかし、私に言わせれば、ロシアの通常戦力はNATOではなく、米国単独のそれよりも弱い。これが現実なのです。

——プーチン大統領は核軍縮に逆行するかのよう、核兵器の近代化にも熱心です。

ペリー ロシアの核兵器の近代化は、今後いつそう、加速することでしょう。その対象は地上発射の大陸間弾道ミサイル（ICBM）や、潜水艦発射弾道ミサイル（SLBM）、戦略



2007年、ペリー、ナン、シュルツ、キッシンジャー（右から）の4氏が、オバマの「核なき世界」につながる核軍縮構想を提案した（AP／アフロ）

爆撃機だけでなく、核弾頭など、さらに戦術核兵器も含まれます。同時に、ロシアの核技術者たちは地下核実験の再開も主張しています。それは、現在の停滞している包括的地下核実験禁止条約（CTBT）の発効を邪魔するだけでなく、条約

そのものをダメにしてしまいかねない。

——米国でも核弾頭の近代化の是非をめぐる議論はありましたが……。

ペリー 我々は、新しい設計を必要としない形での近代化を検討しています。それは「寿命延長プログラム」という名称で、既存の核弾頭のままで、核兵器が有効な期間を延長するという考え方です。しかし、多くの核技術者たちはこれに反

対しています。なぜなら、彼らは常に新しいものを開発したからです。

——当然、同様の議論はロシアでも進行中なのでしょう。ペリー もちろん、そうです。ロシアの核技術者たちの多くは、新しい核弾頭の開発を望んでいます。いつの日か彼らの議論が通って、プーチンがそれを了承することがあっても私は驚かないでしょう。そのようなことがあれば、我々（米国）もおそらく、それに追従することになるでしょう。

——核軍縮の灯は完全に消え、また、核軍拡競争の時代がやってくるのでしょうか。

ペリー その通りです。プーチン大統領はいつか、包括的核実験禁止条約（CTBT）についても「米国がCTBTを批准しないまま、我々は二〇年間、モラトリアム（自主的禁止）を続けてきたが、もう止める」と言うかもしれません。彼にとって、米国が条約を批准しないことは、核軍拡に転じる格好の言い訳になるのです。

——「核なき世界」に関する悲観的なシナリオを逆転させるカギはどこにあるのでしょうか。やはり、米国によるCTBT批准からでしょうか。

ペリー オバマ大統領は、「二期目にCTBT批准を上院に求める」と公言していました。しかし、ロシアとの新戦略兵

器削減条約（START）批准で多大な苦労を強いられること

になります。この経験から、大統領はCTBT批准を米議会に要請しても、拒絶される可能性が高いことを察知しています。そうさせないためには、議会には上げないほうが得策、と判断しているかもしれません。大統領自身は批准を望んでも、任期終了前にそれを米議会に要請するとは思えません。

——次期大統領に期待はできますか？ ヒラリー・クリントン前国務長官はオバマ大統領の「核なき世界」の理想を引き継ぐ、と私に明言しましたが……。

ペリー 後継者が誰であれ、次期大統領がオバマ大統領以上にCTBTを支持するとは思えません。そして、大統領が置かれている以上の政治的環境が整わなければ、新しい大統領の下でも、この分野における進展は望めないと思います。

——純粹に軍事的な観点から見て、米国は現在の核兵器をどれほどまで削減できると考えていますか？

ペリー 政治的な要素を別とすれば、数百発程度まで圧縮することは可能です。おそらく、五〇〇発以下までは現実的に減らせるでしょう。ただ、オバマ大統領が「一千発以下」という数字を口にしたとき、多くの反発があったことも確かです。しかし、純粹に軍事的な観点から言うなら、一千発は十分すぎるほどの数だと思えます。いかなる抑止力の問題も、

核戦力の均衡さえ保つことができれば、それでよいのです。

イランの核問題は時の経過で好転する

——イランの核疑惑をめぐる合意を、どう評価しますか。

ペリー とてもよい Deal だと思いますし、我々が手にし得る、最善の結果だったと思います。これ以上の合意を作り上げるのは無理だったでしょう。

——一方で、米国内外には「それでもイランが核武装の野心を捨てたわけではない」と見る向きも多いようです。

ペリー もちろん、私も彼らが核武装をあきらめたなどとは思っていません。合意はイランの核武装を一〇年前後遅らせる程度で、彼らはゆつくりと核武装に向かって歩みを進めていくでしょう。それでも私は、今回の合意を一〇〇%支持しています。反対を唱える者は現実的な選択肢に目を向けず、地政学的な見識も持ち合わせていないのです。

——イランはなぜ核武装に固執するのでしょうか。イスラエルや欧州に核ミサイルを向けるためなのでしょう。か？

ペリー それは違います。彼らはグレート・パワーになりたい、中東という地域で最も偉大な国家として君臨したいと思っていることに、疑問の余地はありません。彼らは核兵器保有が大国への近道だと間違っって信じ込んでいるのです。日

本やドイツのように、核を持たなくても、大国になる道があるにもかかわらず、です。

——イランが核への野心を捨てる局面はあり得ますか？

ペリー 経済制裁がある程度、効果を發揮していたのは確かです、彼らはもう、核武装することによる代償を支払いたくはないと思つていよう。それは経済的な困窮だけでなく、国際政治の局面においても同じです。

——今回の合意がきっかけとなつて、米国とイランの関係が改善し、国交回復にまで進む可能性もあるでしょうか？

ペリー 私がこの合意によつて時間を稼ぐことを支持する理由の一つは、時間の経過とともに物事が変わり、事態の改善が期待できるだろうということです。つまり、イランの国民が、どの方向に向かうのが重要なのです。私がイランを訪問したときに気が付いたのは、六〇歳以上の女性はベールを被り、目だけしか見せないイスラムの戒律に忠実な姿でしたが、中年女性は顔を出して路上を歩き、三〇歳以下になるとイスラム法違反であるにも関わらず、髪の毛までベールの外に出して歩いていくことです。二一世紀に生まれたティーンエージャーは、おそらく、トラブルを招くことがあつても、自分たちの気持ちのままにふるまうでしょう。

また、私がイラン国内で出会った人たちは、みな英語を話

し、あるいは学びたいと口を揃えて言いました。彼らは子息たちを米国に留学させたがり、実際その多くが米国の大学に通つています。将来、米国はイランの友人になれるのです。

——日本は世界で唯一の被爆国であり、東日本震災では原発事故にも見舞われました。イランにとつては「良き手本」になるべきと思いますが、何ができるでしょうか。

ペリー 日本は核廃絶のシンボルとして、世界にその存在を訴えていくべきです。今まで以上に声を出し、発信していくべきだと思います。その姿勢は尊敬され、世界中で受け入れられるでしょう。もし、日本の総理大臣にアドバイスを求められるとしたら、私はそう伝えたいのです。

——日本にはオバマ大統領にぜひ、広島を訪問してほしいという声が強くなりますが……。

ペリー 私は、「ぜひとも広島に行くべきだ」と彼に助言したいです。「お詫び」のためではありません。オバマ大統領は、就任二カ月で核廃絶を目指すプラハ演説を行ったのだから、彼の仕事の締めくくりとして広島に来て、核政策に関する演説を行うべきだと思います。それはこの国だけでなく、国際的にも非常に強いインパクトを与えることでしよう。結果がどうなるかはわかりませんが、私としては彼にそうした働きかけをしたいと思つています。●